

## 連合平和行動 in オキナワ

日 時：2018年6月23日（土）～25日（月）

場 所：沖縄県

参加者：磯崎部長、徳留事務局長

連合本部が主催する平和行動に2名が参加。3日間、連合神奈川とともに行動しオキナワ集会やピースワールドワークを経て、平和の尊さを学んだ。戦争を経験した語り部が少なくなっている今日、次世代へ戦争の悲惨さや惨さを伝承していくことが重要な課題となっている。



### ○1日目

浦添市民体育館にて「平和オキナワ集会」に参加

【基調講演 講師 屋良朝博氏】

子供の頃、復帰前（アメリカ統治）は基地の中へ入って遊んでいた。綺麗な芝生で野球場も整備されていた。戦争は知らなかった、政治意識をもっていた訳でも無かった。

何故基地問題を話しているかと言うと、沖縄タイムズ在職時に少女暴行事件が起きた。

その事件をきっかけに、基地問題を明確にして生きて行かなければならないと覚醒した。沖縄国際大学で非常勤講師をしていた時、生徒に基地問題をテーマに授業を行っていた。生徒が基地問題に対しての意識について話された。

沖縄戦争は何だったのか？本土を攻撃する前の準備であったのだと思う。兵士8万人、民間人3万人（老人・子供）合計11万人。アメリカ軍は54万人だった。日本は沖縄を守るという意志は無かったであろう。

それで73年前の悲劇が起きてしまった。それは事実という認識をしてもらいたい。戦後、独立を取り戻す為に沖縄は切り離された。1975年5月に祖国に復帰したが基地は残された。学生たち若者に基地問題についてのアンケートを取ると、基地問題についてよく解っていない。

北朝鮮がアメリカを狙う時代です。基地問題は何となくという感覚の人が多。戦争に負けたから基地があるのは仕方無いが、なぜ沖縄が面積の70%も占めているのかが問題である。28000人の兵力の殆どが海兵隊、その海兵隊が居なくなれば基地は小さくなる。嘉手納基地の騒音問題ぐらいになるのではないだろうか。アメリカ軍兵士が50万人から60万人で那覇市の人口が130万人となっている。戦争を体験している人が減ってきて、基地問題に寛容になってきているようだ。と締めくくられた。

## 【平和式典】

### 神津連合会長挨拶

糸満市で行われた追悼式で哀悼の意を表して来ました。と冒頭の挨拶があり、平和の尊さと二度と悲劇を起こさないようにしていきたい。米軍関係の事件や事故が多発しており、大惨事に繋がる事故も起きている。

これは日本全体の課題であり、徹底的な安全対策を求めていきたい、日米地位協定の抜本的見直しが必要だと考える。今回の平和行動で沖縄の実情を学んで欲しい、ここで学び、感じた事を地域や職場で運動として展開していく事を強く願うと話された。

### 謝花副知事挨拶

翁長知事が公務の為に全戦没者追悼会での平和宣言の一部を副知事が代読された。

戦争の愚かさ、命の尊さという平和、戦後73年を迎えても、70.3%の基地が存続している。民意をかえりみず進められている辺野古基地移設問題。辺野古に新基地を作らせないという思いは変わっていません。沖縄基地の在り方を真摯に考えてもらいたいと読まれた。

その後、式典は平和メッセージ、ピースリレー、平和アピールと進行し1日目は終了となりました。

### 2日目

現地視察学習会＝ピースフィールドワーク＝

バスに分乗し、米軍基地コースを廻りました。辺野古⇒嘉手納基地⇒チビチリガマ⇒嘉数高台(普天間基地)⇒沖縄県庁

連合沖縄の皆さんに各場所の説明を受けながら、徒歩、バス移動しながらの参加となりました。日曜日だった為に、辺野古周辺の基地埋め立て反対をする人達の座り込み場所は無人でした。また、嘉手納基地、普天間基地とも滑走路を移動する戦闘機オスプレイなどは、見る事は出来ませんでした。

道の駅「かでな」の3階部分から嘉手納基地を見下ろす事が出来ました。基地は一部返還されている箇所があり、現在では柵がずれて、空き地となった所に畑が出来ているのを見る事が出来ました。

チビチリガマという避難壕(ごう)は、戦争中に米軍に捕まる事を恐れた、家族同士が手をかけるというあまりにも悲しい出来事が起きた場所になります。

昨年、チビチリガマに青年婦人部で千羽鶴を献納しました。その数ヶ月後に肝試しという事で沖縄県内の少年らが壕を荒らすという事件が起き、その為に今年は献花台の設置が取止めになりました。

嘉数(かかず)高台は、普天間基地が見渡す事が出来る高台になっていて、飛行機が上空を通ると住民に音でお知らせする仕組みになっていて、住民への注意喚起がされています。

今回のピースフィールドワークは、約500人が参加し、連合沖縄・連合大分の皆さんが今年の平和行動を迎えるにあたり、学習会を行って当日を迎えたそうです。

バスの中でそれぞれの方が祖母(オバー)から聞いた話や、子どもの頃の体験談など、語り継いで行く事の必要性や、想いを話されました。

戦争を知らない私には、沖縄のイメージは青い海と観光地の印象でしかありませんでしたが、今回、平和行動に参加して、戦争の悲惨さや沖縄の基地問題など多くの事を学ぶ事ができました。辺野古に基地ができると、自然が破壊されジュゴンが生息出来なくなるといった自然破壊についても改めて考える事ができました。

戦争体験者ではないので語り継ぐ事はできませんが、戦争について知る事が出来て自分の為になったと思いました。

レポート：部長 磯崎 律子